

## 第 56 回建築士会全国大会 しまね大会紹介

### 7) まちなみ 1 隠岐の海辺

隠岐は離島の風情が残っているところです。とはいえ、貧しい漁村かと思えばそうでもありません。近世には北前船の沖乗りの寄港地でもあり、さまざまな物資が運ばれ、盛んな交易が島を潤しました。隠岐島の産物としてはもちろん海産物。



特に干シアワビなど出雲風土記にも載って

島前 西ノ島町 国賀海岸 100mの断崖

るぐらいです。そして黒曜石。黒いガラス質の石は割ると尖った矢尻になります。石製のナイフといった感じですが、磨けば宝石にもなる石です。この石が産出しました。そして木です。隠岐には大木が沢山ありました。それらの産物はよその貴重な品々と交換され、売買され、多くの富をもたらしました。島根の近代においても、最も早く和釘から洋釘に切り替わるのも隠岐だったのです。一部の大木は今も不伐の森として保護されています。



都万の船小屋

島はかなりの広さですので一周するだけでもかなりの時間を要します。しかし、そこには古くからのスタイルである、石を載せた屋根を持つ船小屋があ



飯美の船小屋



三郎岩

ったり、板や芝で風をよけた塀

に囲まれた集落などがあります。特に北側の集落は風を避けるために山を作り、海を背にして暮らします。流人の島として暗いイメージが先行しますが、実は文



那久集落の民家



油井の黒壁民家

化の豊かさ、海の産物と島を闊歩する牛の旨さに仰天する島です。